

## 平成 24 年度 教員活動自己点検・評価報告に対する 学部長総合コメント

自己の評価として、それぞれに割り振られた業務の遂行状況や組織への協力、個人の研究活動などを客観的に評価する視点が、各教員に必要であると感じる。今回は本学においては初めての自己点検評価であるが、主観的评价が目立つように感じた。「自身が頑張ったから高評価」となるのではなく「一般的水準からみて、あるいは客観的成果からみて、自身の活動はどうであったか」を評価する自己点検意識が必要である。また、教育、研究、運営にバランス良く活動することが望まれ、各教員の業務負担が均一となる工夫も必要である。個人的な成果（研究業績等）を高評価しているが、その結果として組織への協力が少なくなっているなどの負の評価が十分になされていない教員がいる一方、教育や組織への貢献度が高い教員の中には、研究業績が十分に伸ばせず、負の評価を余儀なくされている教員もいる。本学は教育に係る業務が多く、研究に費やす時間が極端に少ない現状であり、また、その教育や運営に係る業務が一部の教員に偏り、負担の多い教員は研究業績が伸ばせず、負担の少ない教員は研究業績が伸ばせるといったジレンマは早急に解決する大きな問題であると感じた。